

全体講評

今年度はコロナ禍の下、新型コロナウイルス感染症関連作品が多くありました。最適化を活用した作品も多く、ゴミ問題などの環境問題に焦点を当てたものが複数ありました。最優秀賞を受賞したのは、ポイ捨て削減を目的に、実地調査に基づきゴミ箱設置の最適化を行った作品です。重回帰分析によって特殊詐欺を分析した作品や、セミの鳴き声・動物の寿命などの日常的テーマを統計的に扱った作品も多くありました。

全体的に非常に多様で、それぞれをみてみますと、新型コロナウイルス感染症関連で6件の応募がありました。そのうち、シミュレーションが2件で、政策の比較や、感染対策意識の比較、感染状況等を扱った作品が4件でした。最適化のテーマが5件あり、そのうち環境関連のテーマが3件、輸送などの最適化が2件ありました。高度な統計的手法を駆使した作品としては、重回帰分析によって特殊詐欺の要因を分析した作品がありました。また物理測定のテーマが2件ありました。テーマとして多様な分野からの作品があり、経済のテーマとして、新しい経済指標を提案した作品があり、また、日常的なテーマが多く提案され、セミの鳴き声や、野良猫との遭遇確率、動物の寿命などに関連した作品がありました。

新型コロナ感染症関連作品や最適化の作品など、現実の社会的な課題を解決することを目的としている作品が多くありましたが、直接すぐに役に立つわけではないけれども、猫への遭遇確率や気柱共鳴の数理モデルなど、興味深い現象の性質やメカニズムを解明しようという好奇心に動機付けられた作品もいくつかありました。これは望ましいことだと思います。研究の動機としては、課題解決はもちろん重要ですが、それだけでなく、興味・好奇心のファクターも是非付け加えていただきたいと思います。その発展形として、思いもかけない応用や課題解決へとつながることもあり得ます。そのような予想外の展開も含めて、探求の過程をぜひ楽しんで研究を進めていってもらえればと思います。